

平成 25 年度上半期 支援センターみらい
事業報告

【概況】

1. 就労移行支援事業所ふつーは、上半期 4 名が一般就労されました。就労の実績が上がる一方、入所者がなく、利用者確保が今後の課題となります。今年度上半期の利用者状況は、在籍者 8 名、その間の入所者は 2 名、退所者は 4 名で、退所者 4 名は一般就労によるものです。

2. ケアホーム事業では、4 月に旭丘ホームが開所し 7 ヶ所のホームを運営してまいりました。前年度に引き続きセンターと各ホームの情報交換等連携の強化に努めるとともに、職員配置の見直しや賃金の統一化などを行い、利用者支援の充実を図りました。また、個別支援計画の作成においては、日中事業所の支援スタッフも交え面談を行い、支援の連携に努めました。栗ヶ丘ホームにおいては利用者の高齢化に伴う障害の重度化により、法令に基づく消防設備の設置を行いました。余暇支援においては、今年度からセンター所有の車両を使用可能としたため、活動範囲が広がりました。

また、新ホーム開設（平成 26 年 3 月開所予定）に向けた準備を進めました。説明会（11 月中旬頃）を開催に向け、当法人利用者及びご家族宛てに案内を配布しました。

3. 相談支援事業所みらいでは、計画相談の継続契約 6 件、新規契約が 4 件でした。また、現在すでに相談を受け障害福祉サービスを利用するための支援を行っている計画相談契約予定が 6 件あります。

一般相談（地域移行・地域定着）では、現在契約はありませんが、次年度より障害児入所施設からの地域移行支援の相談を受けており、地域移行支援を予定しています。

豊中市生活アシスタント事業（相談）では、月平均 20～25 件の相談があり、その内容は「障害基礎年金申請の申立書の書き方について」「成人期に発達障害と診断されて就職が難しい」「在宅生活が長く、家族の高齢化に伴う将来への不安について」などでした。電話相談だけで終わらせるのではなく、来所や家庭訪問を行い、支援を行いました。ホームページや「えん」、「広報とよなか」などを通じ、知名度が増してきたようで、当事者やご家族だけではなく、病院やヘルパー事業所などからの問い合わせも多くなっています。

また、豊中市における相談支援事業の在り方について行政や「えん」を中心に検討が進められて、当事業所も積極的に検討に参加しているところです。

4. ヘルパーステーションあしすとでは、稼働数の増加、ヘルパー確保に努めました。稼働数については、法人内事業所の利用者を中心に利用量が増加し、移動支援、居宅介護とも前年度同時期と比べ約 2 倍の利用となりました。増加した要因としては、相談支援において抽出されたニーズを支援に繋がることのできたことに加え、ロコミによるものもありました。ヘルパー数が 1.5 倍 (37 名) に増えたことも大きな要因と考えられます。下半期の課題としては男性ヘルパーの確保と平日の稼働数を増やす事が挙げられます。

以上、平成 25 年度上半期事業報告の概況です。